日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 清水赤十字病院

広報誌 ペケレベツ

2026年 冬号 vol.39

ペケレベツとは

アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味しており、清水町の由来となっています。

院長新年挨拶
トピックス
インドネシア看護補助者
忘年会記事
２０２５年度　資格取得者表彰
派遣医師・研修医一覧
編集後記

撮影場所：清　水　町
撮 影 者：石井　康浩

丙午(ひのえうま)考

病院長
藤城　貴教

みなさん新年おめでとうございます。

少子高齢化、というキーワードが警告のように響いていた“X イヤー”の 2025 年も終わり、せまり来る 2040 年問題の対応へスタートが切られました。しかし、我々の心配とは裏腹に 2025 年も少子化が加速し年間の出生数は 66.7 万人と対前年比－ 2.7% の予想です。

さて皆さん十干十二支（干支）の丙午はご存知でしょうか？十干は甲乙丙丁戊己庚辛壬癸、十二支は子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥でこれらを組み合わせて 60 年で一巡します、干支がともに元に戻るため還暦と言うのは皆さんご存知の通りです。丙と午はいずれも火の性質を持ち、勢い・情熱・決断力を表すとされ、今年が 60 年に一度やってくる丙午の歳に当たります。ところで皆さんは丙午生まれの人口が極端に少ないことをご存じでしょうか？この干支の女性は気性が激しく夫の命を縮める、食い殺すなどという迷信が少子化を招いたのですが由来は何でしょう？まず、丙午の年には火災が多いという江戸時代初期の迷信と、色恋沙汰から放火事件を起こして鈴ヶ森刑場で火刑にされた“八百屋お七”が 1666 年の丙午生まれだとされたことから、女性の結婚に関する迷信に変化して現代まで広まったとされます。お七のことは井原西鶴の「好色五人女」をはじめ多くの浄瑠璃や歌舞伎で取り上げられているようです。

政府の記録では丙午の人口統計は過去 1906 年（明治 39 年 ,139 万人）と 1966 年（1966 年 ,136 万人）の 2 回しかありませんが、各々前年より出生数が 4 % ,25% ほど減少していました。“明治の丙午”は日露戦争（1904-1905 年）の頃であり、国を挙げて成人男性を動員したため迷信の影響は最小限にとどまりましたが、“昭和の丙午”は高度成長期にもかかわらず出生は大きく減少しました。では“令和の丙午”はどうでしょうか？生命保険会社の予想によれば迷信による影響はほとんどないと考えられています。しかし昨今の晩婚化・晩産化もあり迷信に関係なく少子化が進むことは間違いないようです。

2025 年以降は生産年齢人口の減少と高齢人口の増加という 2 つの問題が重なります。今や外国人労働者なしでは日本の国は立ち行かなくなってきていますので、国籍や宗教を問わず人間の生活や命、そして人生を大切に扱う社会の成立が求められています。

インドネシア看護補助者の皆さんへ質問

清水赤十字病院へようこそ！
今回、当院広報誌「ペケレベツ」にて皆さんを紹介したいと企画しました。
いくつか質問事項を考えましたので気楽な気持ちで答えてくれたらと思います。

Q1 お名前（ふりがな）
Q2 配属部署
Q3 出身地
Q4 My hobby（何個でもかまいません）
Q5 日本でおいしかった食べ物
Q6 これから行ってみたい所
Q7 抱負（これから何をしたいのか、こういう目標があります！など）

Q1 ムハマド アフィプル ローマン （アフィフ）

Q2 2階病棟
Q3 インドネシア　西ジャワ州カワラン
Q4 音楽を聞きます、ゲームをします、本を読みます
Q5 から揚げ
Q6 札幌（札幌に友達がいる）
Q7 日本語を上手になりたいです

Q1 アティカ プサガ ワンティ （アティカ）

Q2 2階病棟
Q3 インドネシア　タンゲラン
Q4 アニメを見たり、KPOP と JPOP の音楽を聞いたり、漫画を読んだりすることです
Q5 焼き鳥、シーフード
Q6 アイスヴィレッジ、SVT のコンサート
Q7 ボランティアをしたり、園芸をしたり、スキーをしたいです

Q1 ファトマワティ （オリフ）

Q2 2階病棟
Q3 インドネシア　西ジャワ
Q4 旅行
Q5 ラーメン
Q6 札幌（全部日本のところ行きたい）
Q7 介護福祉士を受けたいです

Q1 ヘル ソニ （ソニ）

Q2 2階病棟
Q3 インドネシア　スマトラ
Q4 音楽を聞いたり、アニメを見たりします
Q5 ラーメン
Q6 知床
Q7 仕事に慣れたい、みんなと仲よくしたい

忘年会

3階看護師
中田　直美

12月10日、当院では一年の締めくくりとして、職員忘年会を行いました。

会のスタートは、食事を囲んでの歓談タイム。普段の忙しさをひととき忘れ、会場には和やかな雰囲気が広がっていました。

続いて、2024～2025年にかけて資格取得や自己研鑽に取り組んだ職員の表彰を行いました。日々の業務の合間を縫って努力を重ねてきた職員に、会場からは温かな拍手が送られました。

その後は、北海道のテレビ番組でおなじみの「奥さんお絵かきですよ」をアレンジした全員参加型の企画を実施。6つのテーブルに分かれてチーム対抗で、お題をもとに描かれた絵を当て合いました。個性豊かな作品が次々と登場し、会場は大いに盛り上がりました。全テーブルが正解するという嬉しい展開で、プレゼントが足りなくなる場面もありましたが、その分は後半に行われた毎年恒例のビンゴ大会の景品で対応し、最後まで楽しい時間となりました。

一年を振り返りながら、職員同士が交流を深める、和やかな忘年会となりました。

B I N G O
31

２０２５年度　資格取得者表彰

持続可能な地域医療の「核」を創る ― 病院経営の高度化から始まる地域創生 ―

この度、日本病院会認定の「病院経営管理士」資格を取得した。2 年間にわたる長期の研修期間中、スクーリングや課題作成に伴う不在により、多大なご負担をおかけしたことを心より感謝申し上げる。また、今回の挑戦を温かく見守り、現場を支えてくださった清水赤十字病院の全ての職員の皆様、特に事務部門については限られた人員で最大限にマンパワーを発揮していただいたことに、深く感謝を申し上げます。今後は、この学びを具体的な成果として病院に還元していくことが、責務であると強く認識しております。

1. 病院経営管理士として組織を「内側」から変革する

この度取得した「病院経営管理士」という資格は、単なる知識の蓄積ではなく、病院という複雑な組織を「科学的にマネジメントする」ための実学の証です。 現在、医療を取り巻く環境は、診療報酬の厳格化や働き方改革、そして地域の人口減少と少子高齢化、かつてない困難の中にあります。こうした中で、「医療さえ提供していれば存続できる」という時代が終焉したことを認識しなければなりません。

病院経営管理士役割として、各部門の専門性を「経営」という視点で統合し、無駄を削ぎ落としながら、必要な領域へ資源を集中させることです。病院がまず健全な経営体として「輝く」こと。それが、清水町、地域創生の生活基盤を守るための絶対条件です。

2. 清水赤十字病院が果たすべき「攻め」の転換

清水町では人口減少と少子高齢化が加速し、従来の入院中心の医療需要は減少傾向にあります。一方で、在宅や施設における「介護需要」は確実に増加しています。この変化を座して待つのではなく、病院経営の舵を「地域包括ケアの司令塔」へと切り替えていきます。

病院経営管理士として、データに基づいた経営戦略を立案。例えば、介護・福祉部門とのシームレスな連携による病床稼働の最適化や、ICT を活用した業務効率化です。これらを通じて、病院に「経営的な余力」を生み出し、その余力こそが、新しい地域貢献（地域創生型医療）への投資原資となるのです。

3. 病院は、地域の「大樹の根」である

ここで、病院と地域の関係を「大樹」に例えてみましょう。 清水町という大きな樹を青々と茂らせ、豊かな果実（人口確保や住みやすさ）を実らせるためには、土台となる「根（＝病院）」が太く、深く、栄養（＝経営基盤）に満ちていなければなりません。もし根が枯れてしまえば、どれだけ枝葉を飾ろうとしても樹は倒れてしまいます。私たちがまず、プロフェッショナルとして自らの組織を強く、健全に育てること。その力強い根があって初めて、清水町という樹は未来に向かって枝を伸ばすことができるのです。

4. 病院の輝きを「地域の価値」へつなげる

病院が最新の経営管理によって活力を取り戻し、職員一人ひとりが「この病院で働けて良かった」と輝き始めたとき、その光は必ず地域へ溢れ出します。「高度な医療と介護が安定して受けられる地域」というブランドは、現役世代の定住を促し、高齢者の安心を支える最強のインフラとなります。医療と地域（清水町）がコラボレーションし、地域全体を一つのケアシステムとして設計し、この「地域創生型医療経営」を実践することで、清水町を「住み続けたい街」へと変貌させることができると確信しています。

これらを実行するためには、職員一人ひとりのパフォーマンスを最大限に活かすことが必要となりますので、厳しい医療経営環境を着実に乗り越えて行きたいと思います。

病院経営管理士　事務副部長　大川　浩二

先日の忘年会で、努力賞をいただきました。日々の仕事の合間に続けてきた学びをこうして認めていただき、励みになりました。

昨年度は約５か月間の認定看護管理者教育課程セカンドレベルを受講し、今年度は管理者ラダーⅡを取得しました。研修中は気付けば長時間座りっぱなしで、フレイルになるかと思いました。そんな中、研修を続けてこられたのは、上司のあたたかいサポートや、職場のスタッフのみなさんの協力があったからこそだと感じています。

今回の賞は、私ひとりの力ではなく、周りの方々に支えていただいた結果です。これからも学びを大切にしながら、成長していきたいと思います。

３階病棟　看護師長　伊藤　由香

昨年度、赤十字看護管理者研修Ⅱを受講させていただきました。現場を離れ、看護管理について論理的に学ぶことは、学生に戻ったようでレポートに追われながらも楽し無事ができました。全国に看護管理者の仲間ができたことも、大きな財産となりました。このような機会を与えていただきありがとうございました。この学びを、看護管理者として日々活かせるようこれからも努力していきたいと思います。

外来看護師長　高橋　亜紀

この度キャリア開発ラダーⅠの取得を致しました。看護師１年目から先輩方のご指導の元、取得となりました。ご指導・ご協力頂きました先輩の皆様に心より御礼申し上げます。

今後も邁進してまいります。

２階看護師　石黒　里紗

病院経営管理士	事務副部長	大川　浩二
管理者ラダーⅡ	外来看護師長	高橋　亜紀
	３階看護師長	伊藤　由香
実践者ラダーⅠ	２階看護師	石黒　里紗
在宅看護指導士	居宅介護支援事業所看護師	武田　亜矢

人事消息

【医師派遣】

福岡赤十字病院

10月 1 日(水)～10月10日(金)　冬野　雄太
10月14日(火)～10月31日(金)　吉原　崇正
11月 4 日(火)～11月14日(金)　岡田　祐汰
11月17日(月)～11月28日(金)　上田　純二
12月 1 日(月)～12月15日(月)　小田　倫久
12月16日(火)～12月26日(金)　新郷　寅吉

【医師派遣(専攻医)】

北海道家庭医療学センター

10月 1 日(水)～ 3 月31日(火)　敦賀　梨帆

愛知医療センター 名古屋第二病院

10月 1 日(水)～10月31日(金)　神野りりか
12月 1 日(月)～12月26日(金)　藤岡　聖也

【臨床研修医】

仙台赤十字病院

11月 4 日(火)～11月28日(金)　大久保智博
12月 1 日(月)～12月25日(木)　上谷　康晃

愛知医療センター 名古屋第二病院

11月 4 日(火)～11月28日(金)　和田大二郎
12月 1 日(月)～12月26日(金)　深谷　貢大

姫路赤十字病院

10月 1 日(水)～10月31日(金)　小西　杏花

旭川赤十字病院

9 月29日(月)～10月24日(金)　野中　　梢
10月27日(月)～11月28日(金)　林　　杏香

深谷赤十字病院

10月 6 日(月)～10月31日(金)　藤間　千聡
11月 4 日(火)～11月28日(金)　信田　弥咲
12月 1 日(月)～12月26日(金)　扇　　一馬

沖縄赤十字病院

10月 6 日(月)～10月31日(金)　矢野　貴之

【医学生】

旭川医科大学　10月　2 名
11月　2 名
12月　1 名

編 集 後 記

今号では、新たにインドネシア出身の職員が仲間入りしたことをご紹介しました。院内に多様な文化が加わることで、患者さんへの対応や職員同士の学びもより豊かになることを期待しています。今春には診療報酬改定が予定されており、賃上げや物価高騰への対応が大きな柱となっています。また、効率化が求められる分野もあり、院内の業務見直しも必要となりそうです。こうした変化に備える上で資格取得の推奨は、個々のスキル向上だけでなく、組織力の強化にもつながります。挑戦し続ける職場づくりを進めていきたいと思います。

地域医療連携課　石井康浩

❖ 編集・発行責任者：藤城 貴教　❖ 編集委員長：清野 浩平　❖ 発行元：清水赤十字病院
❖ 印刷：東洋株式会社
〒089-0195　北海道上川郡清水町南2条2丁目1番地　TEL 0156-62-2513　FAX 0156-62-4460
URL https://www.shimizu.jrc.or.jp/　MAIL contact@shimizu.jrc.or.jp